

# 令和7年度 奈良県租税教育推進連絡協議会会長賞

## 税の平等性

西大和学園高等学校 1年 岡田 紗奈

「なんで外国人観光客って免税されるんだろう？」

ある日の帰り道、ふと友達のそんな声が聞こえてきました。確かにものを買うとき、外国人観光客は免税されるけど、日本に住んでいる人は消費税を払います。その瞬間から私は、税の公平性について疑問を持つようになりました。税とはなにか？ 税金は平等なのか？ と考えるきっかけとなりました。

観光客は消費税を払わなくていい一方で、日本に住んでいる人は消費税を払わなければならぬという免税。この制度は一見、「不平等」に見えますが、視点を変えると観光客は普段から日本の社会保障を受けているわけではないので「平等」ともいえます。さらに消費税について考えてみると、収入の少ない人のほうが税の負担が重いという「不平等」な視点と、誰にでも税率が一律だという「平等」な視点があります。このように税金には「不平等」にみえて、実は逆に「平等」と感じる部分があります。

では、所得の高い人ほど税率が高くなる「累進課税」はどうでしょうか。この制度を知ったとき、私はお金を稼いでいる人が損している「不平等」な制度だと思っていました。しかし、調べてみるとこの制度は、所得の高い層からの税金を所得の低い層に社会保障制度を通して再配分することで、経済的な格差を縮小し、社会全体の公平性を高める「平等」な視点がありました。仮に税金が全て一律であれば、所得の低い層が不満を持ち、社会の不安定化にもつながります。これらから税金には社会の公平性を保ち、国を守る役割があると私は思いました。

税の公平性や役割について考え始めたのはふとしたことでしたが、税金には公平性や国を守る役割があると気づきました。免税や消費税、累進課税といった制度を通じて、税金が単に取られるものではなく、社会を支える取り組みであることがわかってきました。また、最初は「不平等」に感じる制度も、よく考えてみると「平等」を追求した結果が多いのだとわかりました。

税金は、単にお金をとられるものではなく、みんなが安心して暮らせる社会をつくるために欠かせない仕組みです。一見すると「不平等」に見える制度もそれぞれに理由があり、社会全体のバランスをとる工夫がされていることに気づきました。

これからは、「なぜこの税制度があるのか？」という視点を持って、税金についてもっと考えられるようになりたいです。さらに将来、社会の一員として税金を納めるときには、その意味や役割をしっかり理解し、関わっていきたいと思います。